

県内景気は総じて横ばいも、輸出と雇用の先行き不透明感が強まる



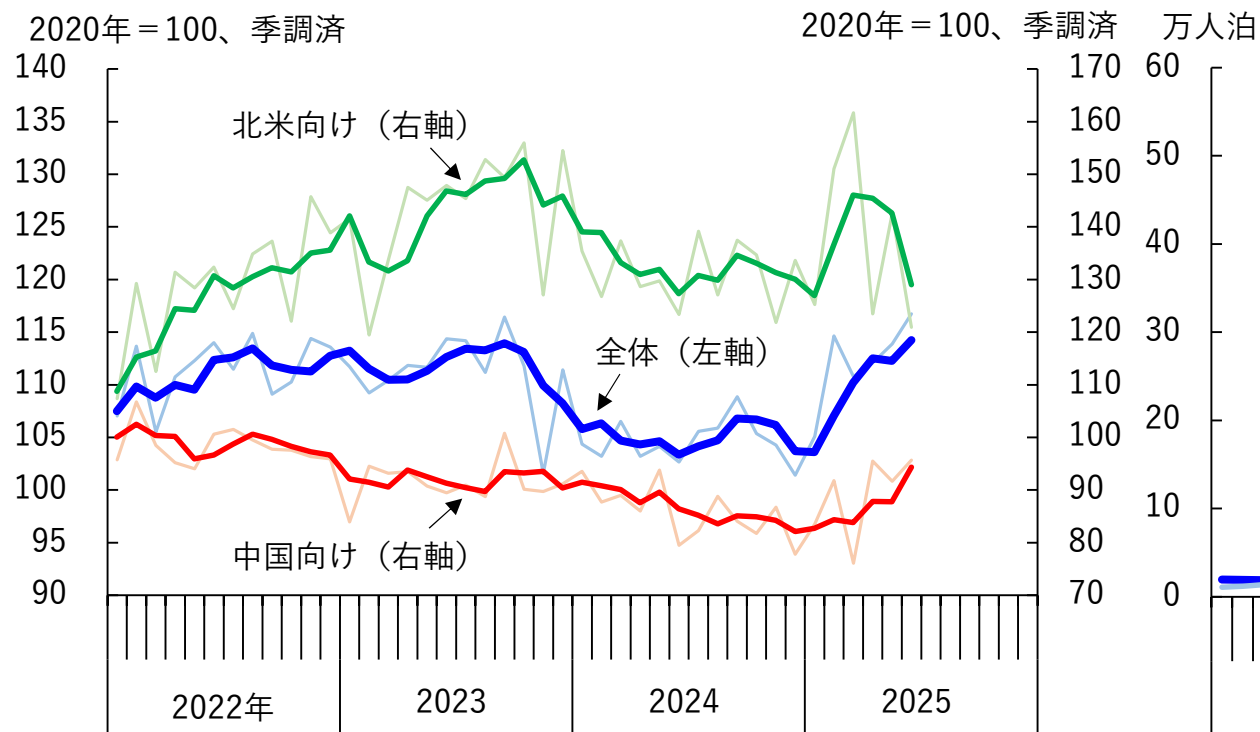
神奈川県内景気

- 6月の財輸出は、一部財の影響で持ち直しているが、それ以外の多くの財は伸び悩んでいる。5月のインバウンド消費は緩やかな増加基調となっている。
- 5月の県内製造業の生産活動は、横ばい圏内での推移が続いている。
- 県内雇用所得情勢は、総じて横ばいで推移した。ただし、価格転嫁が難航する業種を中心に、企業の求人意欲がいくぶんか弱まっている可能性がある。
- 6月の個人消費は、財とサービスで方向感の異なる展開に。まず財消費は、家電に持ち直しの動きがみられた。一方、サービス消費は物価高の悪影響で勢いを欠いている。

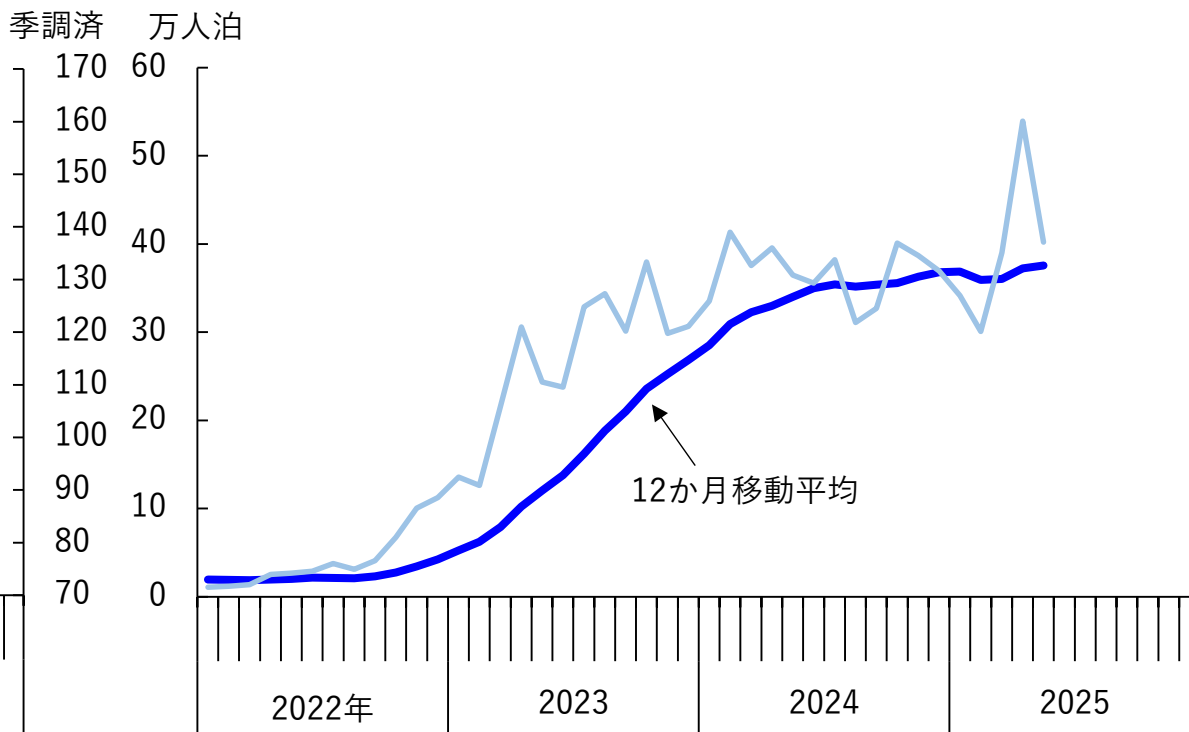


- 財の輸出は見かけほど強くはない。神奈川3港（横浜港、川崎港、横須賀港）の6月の実質（≡数量ベース）輸出は、単月で増加し、3か月移動平均も上昇が続いた。しかし、仕向地別にみると、米国を含む北米向けが前月比-15.2%と減少した。トランプ関税発動前の駆け込み需要の反動が発現している。また、中国向けは、半導体製造装置の輸出増によって押し上げられている。ただ、それ以外の多くの財は現地の景気減速を受けて伸び悩んでいる。
- インバウンド消費は緩やかな増加が続く。直近5月の外国人延べ宿泊者数は前年比+10.3%と増加した。

神奈川3港実質輸出額指数（仕向地別）



神奈川県外国人延べ宿泊者数



出所：観光庁「宿泊旅行統計」

注1：細線は単月、太線は3か月移動平均の値。

注2：季節調整は当社で施した。2020年 = 100として指数化した。

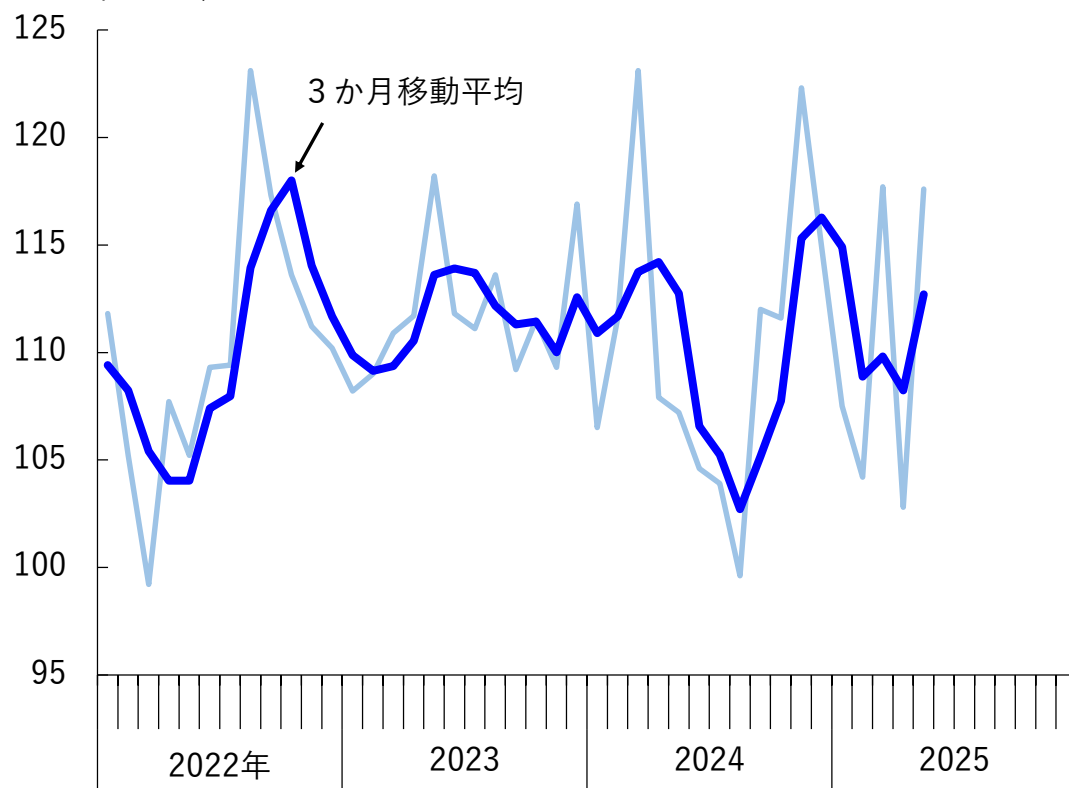
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より浜銀総研作成



- 5月の工業生産指数は前月比+14.4%と、2か月ぶりに上昇した。
- 主要業種別にみると、半導体製造装置を含む生産用機械（同+106.3%）、輸送用機械（同+10.3%）、食料品・飲料（同+3.6%）が上昇した。一方で、医薬品などが減少した化学（同-12.9%）は大きく低下した。
- 月々の振れが激しい生産用機械が指数全体の上昇に大きく寄与しており、それを除けば、県内工業の生産活動の基調は横ばいだったと判断する。

製造工業生産指数（神奈川県）

2020年=100、季調済

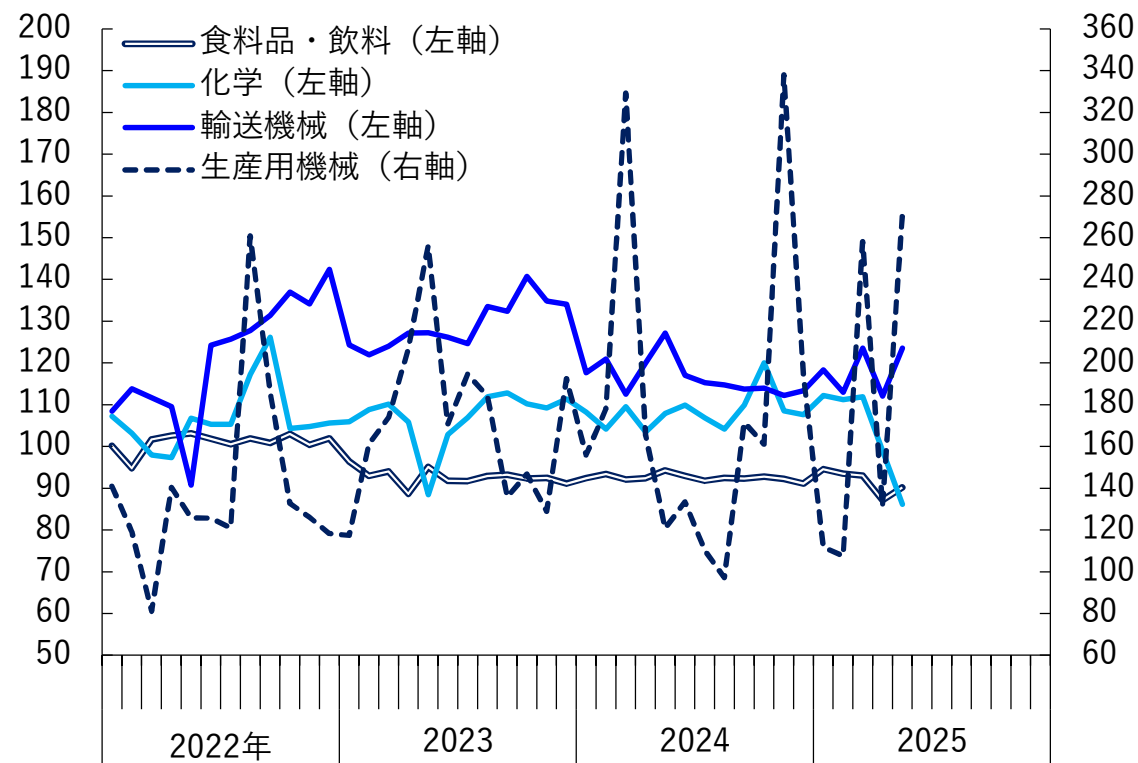


出所：神奈川県「工業生産指数」より浜銀総研作成

主要4業種の生産指数（神奈川県）

2020年=100、季調済

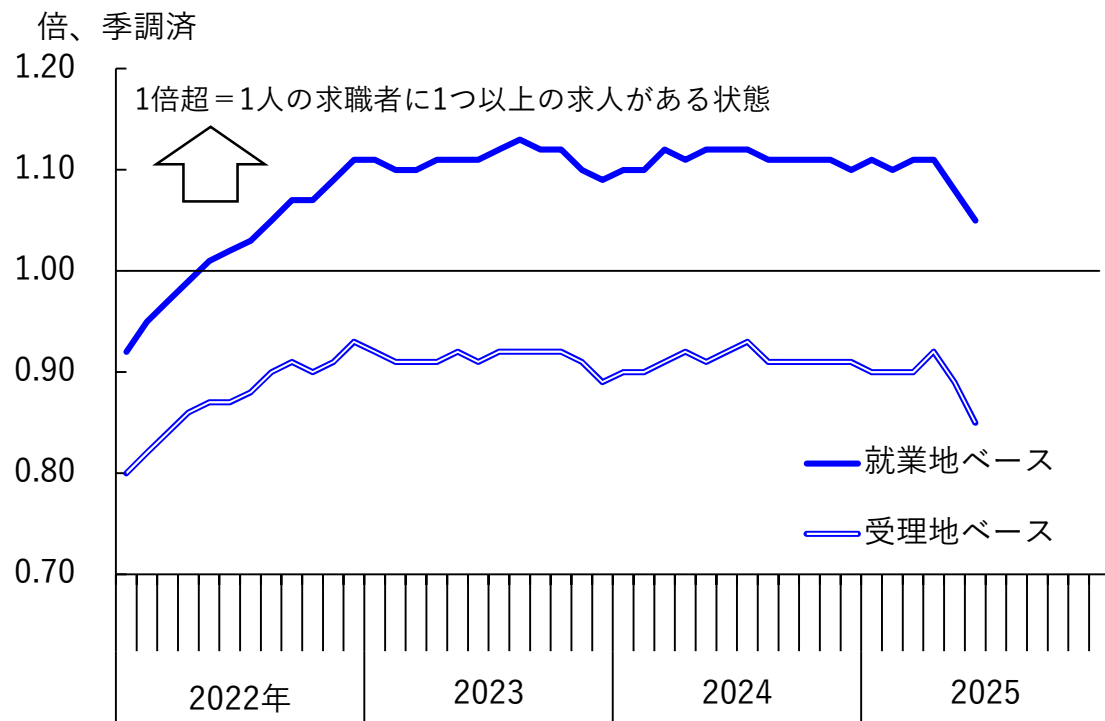
2020年=100、季調済



出所：神奈川県「工業生産指数」

- 県内雇用情勢は横ばい圏内で推移した。6月は有効求人倍率が低下したが、これは主に宿泊業・飲食サービス業の新規求人数が特殊要因により前年比-71.2%と大きく減少したためである。ただ、その他の業種でも、新規求人数が前年割れする業種が目立ち始めている。価格転嫁が難航する業種を中心に、企業の求人意欲がいくぶんか弱まっている可能性がある。
- 家計の購買力を示す実質賃金（事業所規模5人以上）は直近の5月に前年比-2.3%となり、前月よりもマイナス幅が縮小した。5月の名目所定内給与（給与明細上の基本給に相当）は、共通事業所ベースで前年比+3.5%と、4月の同+2.1%から伸びが加速した。今年度の賃上げが数値に表れ始めたと思われる。

神奈川県の有効求人倍率

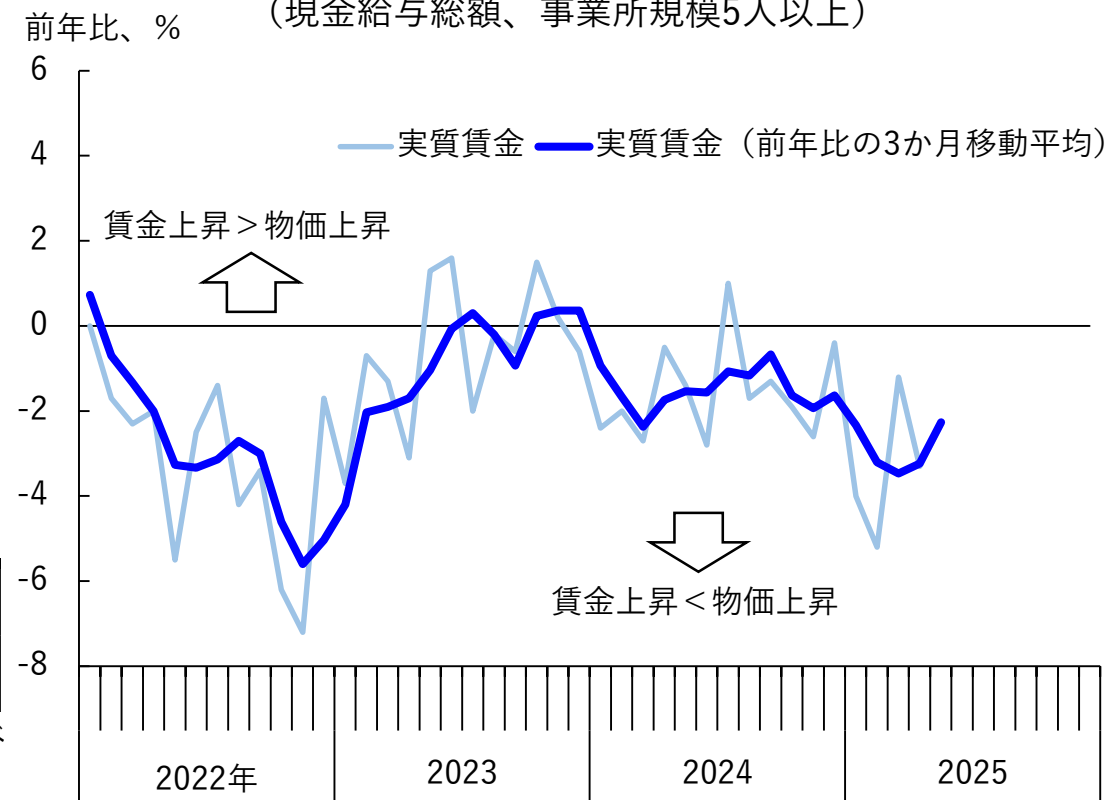


注：受理地ベースは、神奈川県内で受理した求人票をベースとした集計。就業地ベースは、実際に神奈川県内に就業する求人をベースとした集計。

出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」、神奈川労働局「労働市場速報」

神奈川県の実質賃金

（現金給与総額、事業所規模5人以上）



出所：神奈川県「毎月勤労統計調査地方調査」より浜銀総研作成

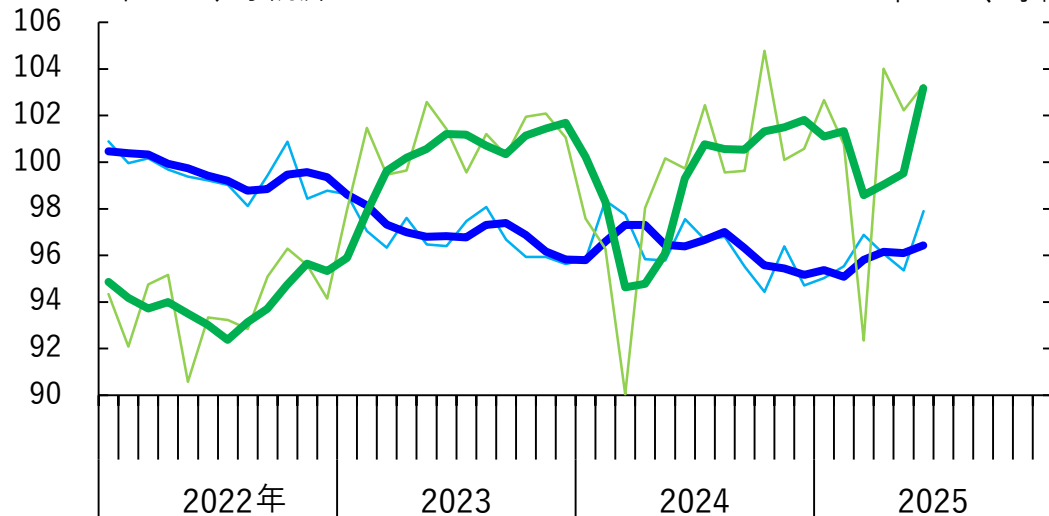
- 財消費は緩やかに回復している。6月の小売業実質（≒数量ベース）販売額は前月比で+2.7%と増加した。業態別にみると、家電大型専門店の実質販売額が伸びた。気温の上昇がエアコンの購入を押し上げたことや、10月にOSのサポート終了を控えているパソコンの買い替えが進んでいることが影響したとみられる。
- 他方、サービス消費は勢いを欠いている。6月の内閣府「景気ウォッチャー調査（南関東）」では、飲食店、レジャー施設などで物価上昇が業況へ悪影響を与えていることを示唆するコメントがみられた。
- 6月の横浜市の消費者物価指数（総合、前年比）は前年比+3.1%となった。米を含む穀類の伸び率は同+31.2%と、前月（同+32.3%）からわずかに縮小した。縮小は9か月ぶり。

神奈川県の小売業実質販売額と乗用車販売台数

■ 小売業実質販売額（3か月移動平均、左軸） ■ 小売業実質販売額（左軸）
■ 乗用車販売台数（3か月移動平均、右軸） ■ 乗用車販売台数（右軸）

2020年=100、季調済

2020年=100、季調済



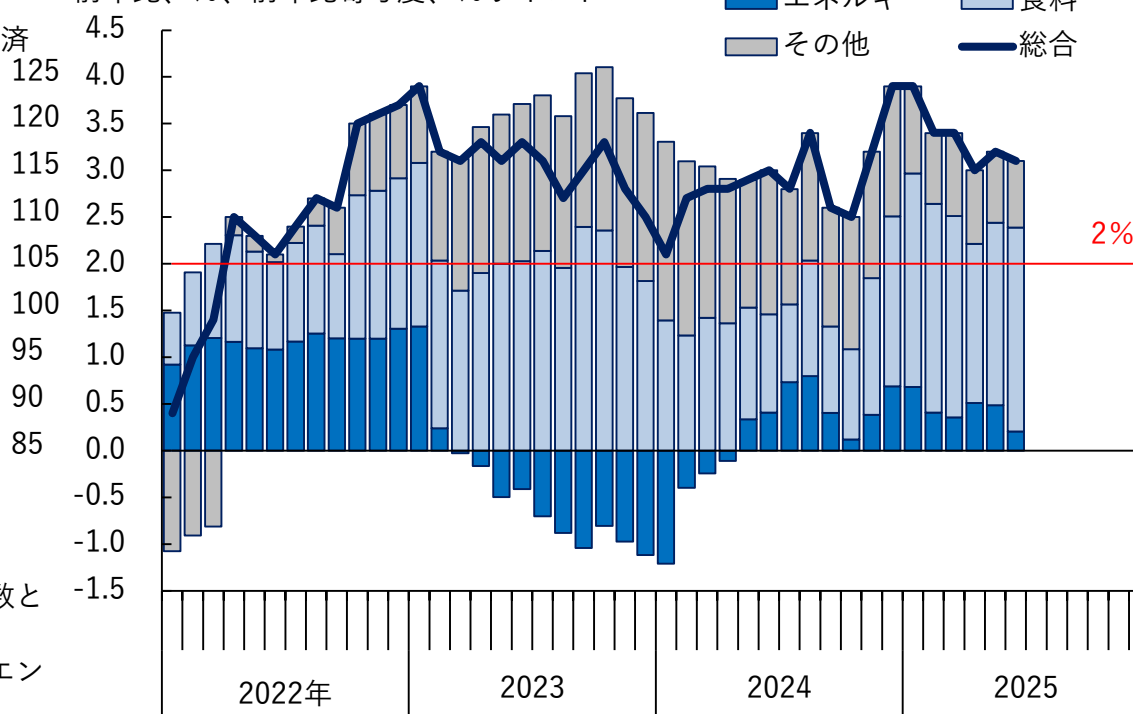
注：小売業実質販売額は、横浜市の消費者物価指数を用いて、概ね財価格の指数となるようにデフレーターを作成し、実質化した。なお、販売額は、百貨店、スーパー、家電大型専門店、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニエンスストアの店舗調整前の合計値。また、季節調整は当社で施した。

出所：経済産業省「商業動態統計」、神奈川県自動車販売店協会資料、全国軽自動車協会連合会資料、総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成

横浜市消費者物価指数（総合）

前年比、%、前年比寄与度、%ポイント

■ エネルギー ■ 食料
■ その他 ■ 総合



注：その他は総合からエネルギー、食料を差し引いた残差。

出所：総務省「消費者物価指数」より浜銀総研作成



浜銀総合研究所



調査部 研究員補
井町 淳哉

浜銀総合研究所では、景気動向に関するレポートなどの発行情報をメールにてお知らせしています。ご関心のある方は、下記のサイトより、「レポート更新情報お知らせメール」（無料）にご登録ください。

【URL】 https://www.yokohama-ri.co.jp/html/inquiry/inquiry_repo.html?nno=5